

レジリエンスを基底とした地域医療の展開

—鴨川市立国保病院の職員・病院長への聞き取り調査から—

大塚 菜緒（大矢根ゼミナール）

論文の目次

概要

論文構成図

目次

はじめに

第 1 章	論文課題・仮説・方法論	1
第 2 章	千葉県鴨川市について	10
第 3 章	レジリエンス概念	13
第 4 章	鴨川市立国保病院と地域包括ケアシステム	17
第 5 章	令和元年房総半島台風	32
第 6 章	ご近所の力	53
第 7 章	父を取り巻く人々	68
第 8 章	考察	73
第 9 章	結論	79
反省と課題		80
おわりに・謝辞		81
参考文献・参考資料		82
図表・写真一覧		86

巻末資料

第 1 回	聞き取り調査	1
第 2 回	聞き取り調査	10
第 3 回	聞き取り調査	26
第 4 回	聞き取り調査	42

論文の要旨

1. 論文課題・方法

2019 年、筆者の地元である鴨川市を襲った令和元年房総半島台風はのちに激甚災害に指定されるほど強烈な台風であった。当時について、鴨川市立国保病院の職員は病院が位置する長狭地区を巡回し、住民の生活支援を行ったという印

象的な話を職員の一人である父から聞いた。そこで、本論文では筆者の父と鴨川市立国保病院の病院長への聞き取り調査をもとに、鴨川市立国保病院の展開する医療やサービス、長狭地区の地域包括ケアシステムについて述べる。加えて、筆者の家族（父、母、兄、祖父母）へ聞き取り調査を行い、鴨川市における祭礼や若潮運動会の効果、「ご近所の力」が発揮されたエピソードを明らかにする。

2. 仮説

本論文においては、レジリエンスを「地域や集団の内部に蓄積された結束力やコミュニケーション能力、問題解決能力」と定義し、「市内には様々な規模の民間病院がいくつか存在するが、公立病院には公立病院独自の医療の展開の仕方や役割があるのではないか」「病院職員が暮らす鴨川市では祭礼などの地域行事や日常生活における交流により、顔の見える関係が構築されているのではないか」「鴨川市立国保病院の働きは鴨川市におけるレジリエンスの高さを特徴的に表しているのではないか」という 3 つの仮説を立てた。

3. 主な知見

病院長・職員への聞き取り調査から、鴨川市立国保病院は、戦後、地域住民の勤労奉仕によってつくられた病院であり、「おらが村の病院」として住民から慕われ、医療を提供してきたことが明らかとなった。介護保険法施行以前から、訪問介護や訪問看護のニーズが生まれ、訪問事業も開始した。病院職員の中には地域に根付いた人が多く、福祉的な部分まで介入し、医療だけでなく、社会的な問題までケースワークしてきたという。現在では予防医療活動の一環とし

て公開講座も行っている。また、令和元年房総半島台風の際には、訪問事業の体制や経験を活かし、病院職員は積極的に地域へ出て行き、医療支援にとどまらず生活支援も行った。

家族（父、母、兄、祖父母）への聞き取り調査と祭礼への参与観察を通じて、鴨川市において祭礼は、人と人との繋げ、その関係を維持する役割を果たしていることが明らかとなった。祭礼に加え、本論文でも取り上げた若潮運動会のような地域行事や日常生活における住民同士の関わり合いは、レジリエンスの強化に繋がっており、鴨川市で生まれ育った祖母は「何かあると、みんなが、（行政の力に頼らず）ご近所の力で（解決してきた）。」と話す。

4. 考察と結論

鴨川市では各医療機関が医療設備や地域における位置づけに従って医療を展開しており、市内の公立病院である鴨川市立国保病院では、「おらが村の病院」の精神のもと、地域住民に慕われ、住民に寄り添った医療やサービスを提供している。住民のニーズに応じていく中で、訪問事業を開始し、今では保険・医療・介護・福祉のすべての窓口がワンストップで設けられている。

鴨川市は祭礼などの地域行事や日常生活における住民同士の関わり合いが盛んな地域である。医療機関によるサービスに加え、日常的な地域住民の活動、「顔の見える関係」も含め、鴨川市には、民間福祉サービスの表題とは異なる「本義的」な「地域包括ケアシステム」がすでに存在すると言えるだろう。

こうした日頃の活動や地域住民の関係性は、鴨川市における「レジリエンス」（＝地域や集団の内部に蓄積された結束力やコミュニケーション能力、問題解決能力）を高め、本論文であげた令和元年房総半島台風の際の鴨川市立国保病院の対応や、住民による大雨により道に流れ込んだ砂利の撤去作業の事例のように、地域（住民）が危機や逆境に直面した際に、その力を発揮している。

主要参考文献

- 藤村正之, 2013, 『協働性の福祉社会学 個人化社会の連帯』, 一般財団法人 東京大学出版会.
- 福武直・佐分利輝彦監修, 青山英康編集者, 1984, 『明日の医療② 地域医療』.
- 奈良由美子, 2023, 「レジリエンス」 日本災害復興学会編『災害復興学事典』, 朝倉書店.
- 大矢根淳, 2010, 「災害・防災研究における社会関係資本 (Social Capital) 概念」『社会関係資本研究論集, 専修大学社会知性開発研究センター.
- 大矢根淳, 2012, 「地域防災活動におけるレジリエンス～川崎市多摩区中野島町会「防災マップ」づくりの事例から～」『大学連携ジャーナル No.3』, かながわ政策研究.
- 大矢根淳編, 2023, 『復興アダプティブ・ガバナンスの実相—東日本大震災 10 年の中間総括—』, 専修大学出版局.
- 武川正吾・森川美絵・井口高志・菊池英明編著, 2020, 『よくわかる 福祉社会学』, ミネルヴァ書房.
- 辻哲夫監修, 田城孝雄・内田要編, 2017, 『まちづくりとしての地域包括ケアシステム 持続可能な地域共生社会をめざして』, 一般財団法人 東京大学出版会.
- 浦野正樹, 2007, 「災害社会学の岐路—災害対応の合理的抑制と地域の脆弱性の軽減」浦野正樹・大矢根淳・吉川忠寛『復興コミュニティ論入門』, 弘文堂.
- 浦野正樹, 2008, 「地域の安心・安全とコミュニティの活性化—脆弱性と復元＝回復力」『自治フォーラム』, 第一法規.
- 浦野正樹, 2023, 「地域の脆弱性・回復性」 日本災害復興学会編『災害復興学事典』, 朝倉書店.
- 山村武彦, 2019, 『災害に強いまちづくりは互近所の力～隣人と仲良くする勇気～』, ぎょうせい.
- 矢守克也, 2023, 「生活防災」 日本災害復興学会編『災害復興学事典』, 朝倉書店.